

# 環研センターnews

第5号

by 山形県環境科学研究センター

村山市榎岡笛田三丁目2-1  
TEL.0237(52)3124  
e-mail:kankyose@pref.yamagata.jp  
編集 環境企画部  
発行 2004年5月26日

## 水辺の生き物保全フォーラム開催

◆3月13日(土)



国立環境研究所生物多様性研究プロジェクト多様性機能研究チーム総合研究官高村典子氏を迎え、「ため池の生態系と保全」をテーマについて講演を行いました。流域の開発による土地利用や生活・産業形態の変化による池沼の水生生物とその多様性に及ぼす影響や湖沼に発生するアオコを通して湖に生きる植物プランクトンの生態や湖沼の直面している環境について話していただきました。

その後、永幡嘉之氏(県希少野生生物調査会委員)をコーディネーターに、本間正明氏(月光川の魚出版会代表)、沢和浩氏(県野生植物調査研究会会員)、武浪秀子氏(西川町立大井沢自然博物館学芸員)、鈴木貞悦氏(水土里ネット村山東根理事長)をパネラーに迎え、パネルディスカッションを実施しました。

県内のため池の状況、フィールドにおける環境学習と保全、開発と保全等について意見交換を行いました。

## ◆3月6日(土) 工房やまがた ワークショップ開催

NPO エコ・コミュニケーションセンター理事の小川達己氏を講師(ファシリテーター)に迎え、環境学習を進めるための仕組みづくりを考えるワークショップを開催しました。

自分がやっていること、提供できること、今後の予定、要望をまとめ、次に参加者同士の積極的な意見交換により課題を出し合いました。その後、グループを作って環境学習を進めるための企画書を作成し、発表しました。ワークショップを通し、参加者同士が様々な形で環境学習に携わっていることを知り、協働して考え、交流できた等の感想をいただきました。



## 自然環境学習を考える交流会開催

◆2月29日(日)



遊佐町立西遊佐小学校、新庄市立泉田小学校、村山市立大蔵小学校、米沢市立広幡小学校より、「砂丘の松林の成り立ちと生き物調べ」、「ぼくらの泉田」、「水辺の生き物調査隊」、「デンジソウ保護を通じた自然体験学習」、「一郎山の生き物地図を作る」について取組を発表してもらいました。

その後、永幡嘉之氏、沢和浩氏をアドバイザーに、グループに分かれ、「学校内部の課題について」、「地域との連携」、「外部講師の見つけ方」、「テーマの見つけ方」について意見を交換しました。

子供が楽しく教師自身も楽しく自然に関わり、その中から感じたことをその後の学習に活かすこと、総合学習が地域に根ざすには子供たちが自分たちの活動をどれだけ地域に発信しているかということ等、多くの意見が出されました。

## 東北・水すまし賞受賞校決定

◆2月23日,25日

日本水環境学会東北支部では、東北地方における小・中・高校を対象に、良好で快適な水環境の創造と保全に貢献する優れた活動をした個人・学校に「東北・水すまし賞」を表彰しています。

山形県では東根市立東郷小学校と県立加茂水産高校が2月23日及び25日に表彰されました。

東郷小学校は「水の不思議」をテーマに水道水はどこからくるか、から始まり、便利な水の恐ろしさ等、社会・理科の内容ともつながり、地域を見直していく活動が評価されました。

加茂水産高校は、「油戸川の魚類調査」をテーマに、地域の川、海、森を一つの生態系ととらえ、川の上流から下流に住む魚類の調査・環境調査内容が評価されました。

## 全環研交流シンポジウムで MNA研究について発表

◆2月18日(水)

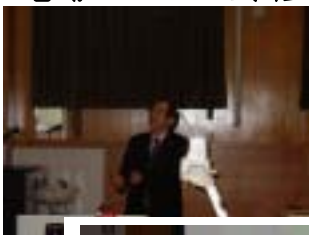
### MNA(科学的自然減衰)とは・・・

地下水や土壌汚染の浄化対策を実施した後に、地下水中の汚染物質濃度が微生物等の地域固有の要因によって自然に減衰していくことを科学的に認識した上で、濃度の低減を自然減衰に委ねるといった考え方

第19回全国環境研究所交流シンポジウムがつくば市で開催され、当センターの大岩研究企画専門員(当時)が「VOCによる地下水汚染対策の現状とMNA研究について」というテーマで発表してきました。

有機塩素系化合物(VOC)の微生物分解が起こっている所はMNAの適用が可能な地区です。また、主に地下水の流れで濃度が薄められている場合は、地下水の下流の地域にも影響を及ぼすことが懸念されるので、汚染範囲が広がらないことが重要であり、ある程度濃度が低くなってからMNAに移行した方がよい。

## 地域やぐらしを入口に地球のことを考える～地球温暖化防止講座2・3日目～ ◆2月21日,28日



2月21日は宮城県農業短期大学教授加藤徹氏により「地球温暖化が水資源に及ぼす影響について」、東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター長三枝正彦氏により「地球温暖化が農業に及ぼす影響」について講座を開きました。

気温上昇に伴い、雨のうち雪となる割合と積雪水量が少なくなります。また、融雪時期や流域の消雪日も早まるため、融雪による流量の増える時期が早くなり、流量の減少も顕著となります。

21世紀は食糧と環境と生命の時代といわれます。しかし、世界人口は増加し続けており、単位面積当たり収量を少なくとも2倍以上にする必要があるとされています。一方、産業革命以来の人間活動の量的、質的变化は地球温暖化を引き起こしています。今後の世界的視野に立った農業生産は、不足する養分を残留させ、環境への付加なしに行う有機物のリサイクルを基本とした最大効率最小汚染魔法が重要です。



2月28日は(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事門田洋子氏により「地域やぐらしを入口に地球のことを考える」をテーマに講座を、NPO DO! tank 代表岡部恵美子氏による「地球温暖化について1人でできることみんなができること」をテーマにワークショップを開催しました。

省エネ普及の具体的なノウハウを学び、ワークショップでは参加者同士が地球温暖化防止のため家族や会社・地域でできること、また実践してもらうにはどうすればよいかについて考え、話し合いました。最後には参加者全員が「自分はこれを実践するぞ」の意志を込めた“I wishカード”を貼り付け、講座を修了しました。



## ☆3月15日～5月14日☆ マイバッグ展開催しました ほっとnews

村山市消費者団体の協力を得て、マイバッグ展を開催し、不要になった服や浴衣、ネクタイなどを利用したいろいろなバッグを展示しました。

今回出展してくださった三浦桂子さんは、「いらぬ物を使ったというのはイヤなんです。そのまま使わずに模様にしたたり、ひとひねり工夫をすることにこだわってます。」「捨てる前に何とかならないかを考え、何ができるかを楽しんでます。」と話してくださいました。



## ミスター佐竹のセンター紹介

今回はダイオキシン類を分析している「ケミカルハザード施設」の空調設備について紹介します。

ダイオキシン類の分析は超微量を分析するため、実験室の空気が汚れていると正確な測定結果を得ることができません。このため、施設内には活性炭フィルター等で汚染物質を除去した空気が常に供給されています。

また、施設から出る空気や水は、周辺環境への汚染を防止するため、入る空気と同様に活性炭フィルター等できれいに排出しています。

さらに、施設内は常に他の一般の実験室より低い気圧に保たれており、施設内の空気が外部に流れないようにしています。